

# 成人してから知的障害が 判明した患者に対する関わり

五稜会病院 看護師 和田 加奈子  
鈴木 由美子  
八木 こずえ

第9回北海道病院学会  
平成21年7月4日 札幌市

## はじめに

軽度知的障害はその存在が見逃され、治療者ばかりでなく家人など周囲も気づいていない事も多い。

今回、入院後に知的障害が判明したケースに対し、関わりを工夫した結果、不適応行動が軽減し、家族も病識を得て退院することができた。この看護経過を振り返り、有効なケア方法について考察したい。

## 事例紹介

- M.K氏 20代後半 女性
- 診断名 入院時：境界性人格障害  
入院後：知的障害による不適応状態
- 入院期間：2ヶ月18日（担当期間：1ヶ月21日）
- 家族関係：自営の両親、3人兄弟の第2子
  - ・両親との関係はあまり良くない。
- 病気の経過
  - ・高校卒業後、アルバイトをしながら男性と同様
  - ・興奮して暴れたり大量服薬したりなどの行動あり。
  - ・当院閉鎖病棟へ入院。常におどおどと、気持ちを上手く伝えられない状態が見られた。
  - ・受動的に関わる事で徐々に言語表現できるようになり、ストレスケア・思春期病棟へ転棟となった。

## ①自己表出ができず混乱を呈する時期 ＜入院5～8週＞

常に緊張している様子  
対人関係に悩んで被害的となり、自己評価が著しく低下  
看護師のアドバイスや内容を理解できず混乱

時間がかかっても環境に適応できない状態が続く。  
自己表現が思うようにできていない  
著しく理解力が乏しい

### 入院後のアセスメント

理解力の低さや、人格障害に見られる行動特徴がないことから、他に問題があるのではという疑問を抱いた。

## ②軽度精神遅滞判明後の変化の時期＜入院9～10週＞

主治医の指示にてWAIS-IIIを施行。IQ62と判明。  
自己検討能力の低下と混乱から、部屋のかたづけや洗濯もできず、記憶力の低下も認められた。  
そのため看護師の関わりを変更した。

### 看護師の関わり（本人が理解しやすいコミュニケーション）

- ①大切なことはメモを取るようアドバイスする。
- ②できるだけ簡素な言葉を選んで会話する。
- ③同時に複数の内容の会話をするのを避ける。
- ④会話は紙に会話内容を簡単にまとめながら進める。
- ⑤ゆっくりと話すと同時に混乱しない程度の内容に留める。
- ⑥必要に応じて指示的な関わり

関わり後には表情も改善、安定感が得られた。  
疎通でき、受け持ち看護師との関係性が築けてきた。

## ②軽度精神遅滞判明後の変化の時期＜入院9～10週＞ 主治医と心理士から父と本人に軽度精神遅滞である事を告知

### ＜父と本人の反応＞

父：昔から特に問題は感じていなかった。入院後、本人の混乱には気付いていたが、これまでは威圧的な関わりが多く、具体的な関わりに不安がある様子。  
本人：反応が乏しく、理解内容は曖昧だった。

### ＜看護師の父へのサポートとその結果＞

父へ→入院後の本人の状態と看護師の関わりの詳細を説明  
地元での支援体制の情報提供をPSWに依頼

父→本人に対し、優しく解かりやすい会話を心がける様子が見られるようになった。

③病識獲得の糸口を掴み退院を決意するまで  
 <入院11~12週>

課題1、他患との交流を控えることに了承するが、  
 二人での過ごし方が解らない

看護師が毎日、1日の過ごし方を共に考える。  
 書き込みできるスケジュール表に1日の行動を一つに  
 絞って記入する。

課題2、「何かしなければ」という焦燥感がある

自分のペースで過ごしてよい事を保証する。  
 「ごほうびシール」を使用し、目に見える形で良いことの  
 積み重ねを実感してもらう。

さんの  
スケジュール表

日	月	火	水	木	金	土
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

結果

- 本人は両親に対し「理解してもらえない」という  
 苦手意識があったが、外泊を繰り返す中で父の気  
 遣いなど変化を感じとれていた。(関係改善へ)
- 外泊中に実家の農業を手伝う中で、「自分は人と  
 接する事よりも、農業をしている方が向いてい  
 る」と自分で考えられ、退院を希望した。
- 不安はありつつも、スケジュール表を続ける事に  
 したり、デイケアの通所も自ら希望したりと自発  
 的な意見も聞かれるようになった。希望通り、実  
 家に退院となった。  
 その後、当院に定期的に通院している。

まとめ

- 軽度知的障害は周囲から気づかれない事  
 が多いが、適切に判断・対応する事で、  
 不適合状態の改善など、二次的な精神疾  
 患の回復や予防を図ることが重要である。
- 患者の退院後の生活を見据えたフォロー  
 体制を整えるためにも、家族との情報交  
 換・精神的フォローなどが非常に重要で  
 ある。